

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス事業所 夕凧		
○保護者評価実施期間	令和7年11月 1日		～ 令和7年11月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	令和7年12月 5日		～ 令和7年12月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1 月 20 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	構造化され、分かりやすく自立して活動できる環境	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の流れや活動内容を視覚的に提示し、環境を構造化することで、子どもたちが見通しをもって行動できるよう支援している。 ・指示を待つのではなく、自分で次の行動を理解し、自立して取り組める環境作りをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの理解度や特性に応じて、視覚支援や環境設定の見直しを定期的に行う。 ・職員間で支援方法を共有し、より分かりやすく自立を促す環境づくりを継続的に改善していく。
2	一人ひとりに合わせた個別の療育プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達段階や特性、課題に応じた個別の療育プログラムを作成し、無理のない過ごし方で成長を支援している。 ・小集団活動と個別支援をバランスよく組み合わせ、成功体験を積み重ねられるよう工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントの精度を高め、定期的に支援計画の評価・見直しを行うことで、より効果的な個別療育を提供する。 ・職員研修やケース検討を通じて専門性の向上を図り、支援の質の統一と向上に努める。
3	ご家族への継続的なサポートと連携	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の支援内容や子どもの様子を丁寧に共有し、ご家族の不安や悩みに寄り添った相談支援を行っている。 ・家庭と事業所が連携しながら、子どもの成長と一緒に支えていける関係づくりを大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面談や連絡帳を通じた情報共有を充実させ、ご家族が家庭でも活用できる関わり方や支援方法を提案していく。 ・相談しやすい環境づくりを行い、家庭と事業所がより密に連携できる体制を整えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	発達段階や年齢に合った活動提供。特に中高生にとっては物足りなさを感じる活動となる場合がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階や特性に応じた個別療育プログラムにしているが、主に小学生を想定した内容が中心となり、中高生の発達段階や興味・関心に充分対応しきれていない部分がある ・職員間で中高生支援に関する共通理解や支援目標の整理が不十分な部分がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生向けに、年齢や発達段階を踏まえた段階的・発展的なプログラムを新たに検討・導入する。 ・中高生支援について職員間で定期的に振り返りや研修を行い、支援の方向性や関わり方の共通理解を図る。 ・本人や保護者の意向を確認しながら、個別支援計画へ反映し満足度の向上を目指す。
2	事業所内で取り組んでいることが、保護者へ十分に伝わっていない部分があり、情報提供不足のところがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の伝え方や発信の時間が十分に取れていないことがある。 ・送迎時や連絡メモでは、伝えきれない内容がでてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学や説明の機会を増やす。 ・保護者会を開催し、事業所の取り組み内容を説明する機会を設ける。 ・LINEやHPを活用し、写真で伝えるなど見てわかる内容表示にして情報発信していく。
3	地域の子どもたちやきょうだい同士で交流する機会がもてていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子どもたちは、公園やその他の公共施設では一緒にいることはあるが、行く機会が少ない。 ・きょうだいは、一緒に来所されたときに中に入ってもらいにくくなどしているが、どこまで対応していいか職員が戸惑う面もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加や交流の場を増やし、地域の子どもたちとのつながりを深めていくようにする。 ・きょうだいも一緒に参加できる行事を企画する。